

三哲小傳

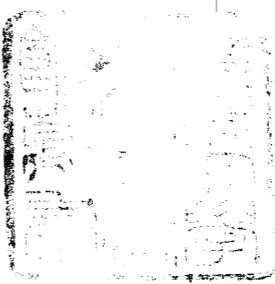
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

タイトル番号：0093

書名：三哲小傳

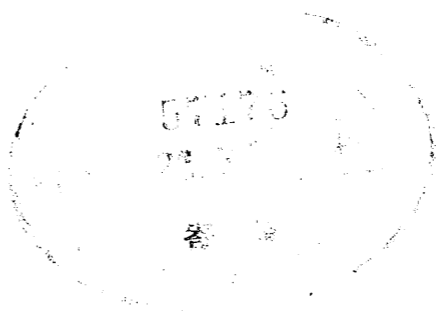
1冊

121



三哲小傳序

吹求穀之精鑿者必擇之稗粟中
除其其稂和穀揚其其糠而後始
得純粹志焉治紀傳者亦然博採
之百有諸史中其其浮者去其其
得甚正實者為睦聖江澤翁者上
德人也自幼好學師事吾祖北山
先生研窮經史傳好國學常



欽慕於中真謂本居之為人而
患其傳不詳其學未明方年
茲而近世為世學稱其傳者或
從浮言或取虛說是皆為未得
其精粹者矣今第以窮經史之
力擇其精粹者於經錄小說釋史
野乘之作三人傳一卷名曰三指
小傳如貴君語浮言者一無在

焉所謂得志正實志也嗚呼後志
于此學者取此傳讀之不特得傳
之正實詳密亦可明其學之真
者矣隱之得君之精鑿純粹在
不游乎刻成微言為曰師也先師
之孫也且序君所著書錫威服
其厚志自忘固陋謹記此言贈
之云爾

天原彦卯社古産局前日録あり
孝徑樓南畫の

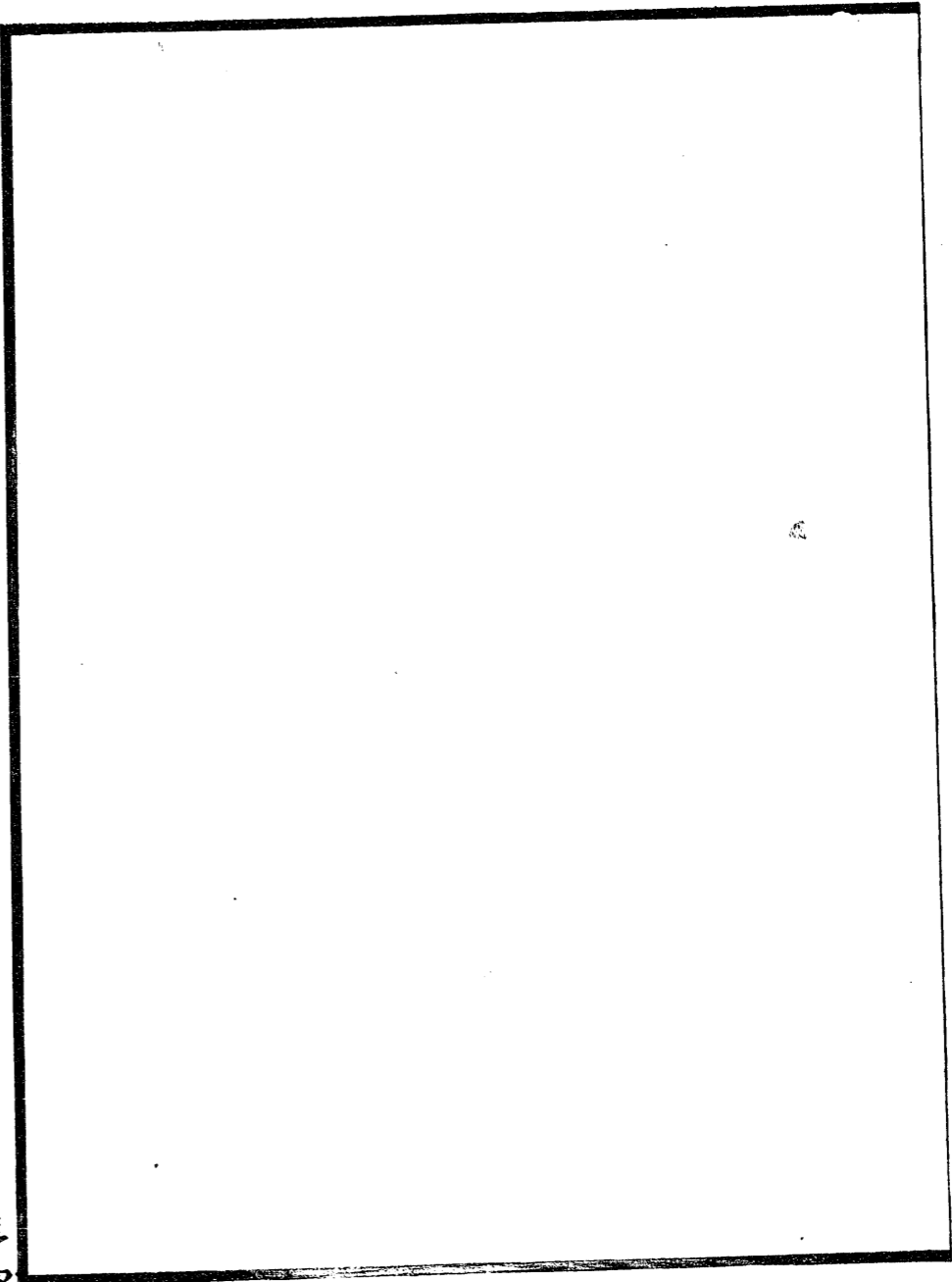
學軍山本信錫撰



茶齋盛義書



荀卿が書に。水深け過ぐらげき也。木葉おはは
本にくら。弟子あともうは志純と師成を。詩にも
言小徳にひくいざかはねといふ。うとや教に
ゆとねの。』おれあまう。』
えしあまお身ま積ど。しとごのたの坂だたはく
杖のきよりねの。いもあまねくはい。て。わあり
えん。』



序四

三哲小傳序

天地のなすはまふくしむしみははる
 けのむねをらね年月を經く瑞穂さ
 めるはあはれあはれいもくさくこの世に
 ぶきけり持しよき人なればあはれは
 のはらなをりめしむしむのれ系
 言ふも後むしよきもあはれは
 してあむ人の今もあはれは

序一

